

広島市立大学

開学 20周年記念事業

記録冊子



学長あいさつ

広島市立大学 理事長・学長
青木 信之



1994年に開学した本学は、2014年に開学20周年を迎えました。この間、地域をはじめ、社会に優秀な人材を還元するという公立大学の教育的使命を果たすとともに、国際、情報、芸術、そして平和という他大学にない特色を生かしながら、研究、社会貢献においても着実な実績を積み重ねてきました。

この開学20周年を記念し、さまざまな事業を実施してまいりましたが、特に記録として残し継承すべきものについて、冊子としてまとめることといたしました。

まず、記念式典、記念講演、そして祝賀会を6月14日に開催しました。松井一實・広島市長、碓井法明・広島市議会議長、中村慶久・公立大学協会副会長(岩手県立大学長)をはじめ、多くのご来賓の方々にご参加いただき、また記念講演では、長く本学の大学院非常勤講師をお勤めくださっています東京大学名誉教授・国際基督教大学名誉教授の村上陽一郎先生にご講演いただきました。

11月1日、2日には、卒業生も参加する大学祭に合わせて多くの事業を実施しました。まず、初日に開催した「ヒロシマの記憶を未来へ」と題する全学合同シンポジウムでは、東京大学副学長の吉見俊哉先生に基調講演を、また、詩人の和合亮一さん、観光学者の井出明先生、広島平和記念資料館長の志賀賢治さんをお迎えして、パネル討論を開催いたしました。さらに、ヒロシマの記憶継承に向けた本学のさまざまな取り組みについてもご紹介させていただきました。

また、その夜には初めての試みとして、ホームカミングデー同窓会を開催しました。元学長の藤本黎時先生、前学長の浅田尚紀先生をはじめとする名誉教授の先生方、多くの卒業生、修了生にご参加いただき、旧交を温めるとともに、本学の特色である学生と教員の人的関係の近さと深さを感じることができました。

さらに、若い人々の平和に対する関心を高めることをねらいとして、学生平和論文コンテストを実施し、国内外の学生から多数の応募をいただきました。外部審査員も含めた厳正な審査の結果、本学の大学院生である鍋島唯衣さんの論文が最優秀賞に選ばれたことは、嬉しいことでした。

そのほかにも、学生企画の大運動会や、国際学部、情報科学部、芸術学部、そして広島平和研究所による開学20周年記念に合わせた事業が数多く実施されました。

こういったすべての事業は、学内外の皆様のご支援、ご協力によって実現できたものであり、お力添えをいただいた皆様に心より御礼申し上げます。また、先に刊行した『広島市立大学開学20周年記念誌』同様、この記録冊子の編纂についても、記念誌編集委員会の皆様にご尽力いただきました。開学20周年記念事業本部を代表して、ここに謝意を表したいと思います。

今後も広島市の皆様のご期待、そして諸先輩方のご功績に応えるため、広島市の公立大学としての使命をより明確に自覚し、それを果たすべく真摯に取り組んでいく所存ですので、引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

記念式典・記念講演・祝賀会

開催日：2014年6月14日（土）

会場：リーガロイヤルホテル広島4階 ロイヤルホールおよびクリスタルホール（広島市中区）



記念式典

式次第

10:30～11:00

記念式典（於：ロイヤルホール）

1. 開会
2. 学長式辞
3. 来賓式辞
4. 祝電披露
5. 学歌斉唱
6. 閉会

11:00～12:00

記念講演（於：ロイヤルホール）

「大学と教養教育」
村上陽一郎

（東京大学名誉教授・国際基督教大学名誉教授）

12:00～13:30

祝賀会（於：クリスタルホール）

1. 開会
2. 学長挨拶
3. 来賓祝辞
4. 鏡開き
5. 乾杯
6. 歓談
7. 謝辞
8. 閉会



松井一實・広島市長



碓井法明・広島市議会議長



アカベラサークルregaloによる合唱



村上陽一郎氏



鏡開き

6月14日（土）、広島市立大学の開学20周年を祝う記念式典、記念講演、および祝賀会をリーガロイヤルホテル広島にて執り行った。学内外から関係者200名余りが参加した記念式典は青木信之学長の式辞に始まり、松井一實・広島市長、碓井法明・広島市議会議長、湯崎英彦・広島県知事からの祝辞が続いた。祝電の紹介の後には本学学生のアカベラサークル「regalo」が学歌を斉唱。参列した本学名誉教授の諸先生方の中には、一緒に口ずさむ姿も見られた。

記念式典に続いて、東京大学名誉教授で国際基督教大学名誉教授の村上陽一郎氏を迎え、「大学と教養教育」という演題で記念講演を行った。

午後の祝賀会では、中村慶久・公立大学協会副会長（岩手県立大学長）と内田智久・第11代広島市立大学後援会長から祝辞を賜り、鏡開き、松井市長の音頭による乾杯と続いた。途中で藤本黎明・第2代学長、浅田尚紀・第3代学長が本学での思い出話を披露し、また開学前後の時期の写真を集めたスライドを鑑賞しながら松浦洋二・初代事務局長が当時のエピソードを交えるなど、会場は懐かしい話で持ち切りとなった。



中村慶久・公立大学協会副会長



内田智久・第11代後援会長



藤本黎明・第2代学長



浅田尚紀・第3代学長



松浦洋二・初代事務局長



青木信之学長



祝賀会

ホームカミングデー

開催日：2014年11月1日(土)～2日(日)

会場：広島市文化交流会館3階 銀河(広島市中区)および広島市立大学

広島市立大学は開学20周年を迎え、初めてとなるホームカミングデーを2日間にわたり開催した。初日のホームカミングデー同窓会(懇親会)で幕を開け、2日目は大学祭の日程に合わせて本学キャンパスにおいて各学部による企画や記念植樹でにぎわった。



青木信之学長



鍋屋朗美・同窓会長

ホームカミングデー同窓会(懇親会)

第1回ホームカミングデーの幕開けである同窓会(懇親会)には、第1期生から第17期生までの卒業生や現職および元本学教員ら計273名が一堂に会し、開学20周年を祝った。会場では恩師や同級生など懐かしい顔との再会で思い出話に花が咲き、終始和やかな雰囲気と熱気に包まれていた。

会の冒頭で青木信之学長が「本学の特色である学生と教員の人的関係の近さ、深さを大事にしていきたい」、続いて鍋屋朗美・同窓会長が「新しい大学には若さという利点がある。同窓会も一層頑張っていきたい」と挨拶。さらに藤本黎時・第2代学長、卒業生の深尾尚吾さん(第14期生、国際学部)、石上泰章さん(第11期生、情報科学部)、小林浩美さん(旧姓・道寄、第2期生、芸術学部)が、元本学教員および卒業生を代表して思い出話を披露した。またマンドリン・ギター部の在校生15名による演奏もあり、出席者一同は澄んだ音色に耳を傾けていた。最後に学歌「旅立ちの詩」を全員で斉唱し、本学初めてとなる大同窓会は盛況のうちに終わった。

国際学部 「懐かしの授業」・「卒業後の私」

国際学部では、第2代学長の藤本黎時・名誉教授と元本学教員の嘉指信雄氏(現・神戸大学教授)による「懐かしの授業」と、卒業生の福元奈津さん(旧姓・橋本、第4期生、ふくふくチーズ工房経営)と花井利彦さん(第2期生、NHK広島放送局勤務)による講演「卒業後の私」を行った。このうち藤本元学長は「戦中派の『イギリス文化論』と題して講義。自身の戦時中の体験や、専門分野であるアイルランドの歴史と文化、特に1840年代の大飢饉を語り継ぎ今日につなげているアイルランドの人々について紹介、「豊かな想像力、人の苦しみに共感する心を養ってほしい」と話した。



藤本黎時・名誉教授

情報科学部 「懐かしの授業」・「卒業後の私」

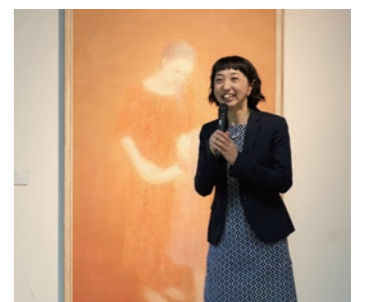
情報科学部では、元本学教員の相澤輝昭・名誉教授、大場充・名誉教授、越智裕之氏(現・立命館大学教授)による「懐かしの授業」と、卒業生の豊田輝隆さん(第3期生、(株)NTTドコモ勤務)、中道一弘さん(第2期生、(株)サタケ勤務)、谷晋平さん(第2期生、(株)熊平製作所勤務)による講演「卒業後の私」を行った。このうち自身の仕事を紹介した豊田輝隆さんは「何でもいいので一生懸命やってほしい。そして、このままでなりたい自分に近づけているのか、たまに自問自答してほしい」と後輩たちへメッセージを送った。



豊田輝隆さん

芸術学部 「活躍する卒業生 未来をつくる」展・ギャラリートーク

芸術学部は10月27日(月)～11月9日(日)に本学芸術資料館において、新生加奈さん(第5期生、日本画)、大谷郁代さん(第7期生、油絵)、野原邦彦さん(第8期生、彫刻)、田村佳与さん(第2期生、デザイン)、佐故龍平さん(第2期生、工芸金工)ら5名の卒業生の作品約30点を紹介する展覧会を開催した。11月2日(日)のホームカミングデーでは制作者自らが作品を解説するギャラリートークを実施。このうち新生加奈さんは「生きている人間ほど深くて面白いものはないと思う。その人の経験や思いを描き、その人の存在をそこに表現したい」と作品制作に込める思いを語った。



新生加奈さん



楷の木の記念植樹・ライトアップ

11月2日(日)、本学において、青木学長、鍋屋同窓会長、第21回大学祭実行委員長の芝田健人さんによる、楷の木(カキノキ、学問の木)の記念植樹を行った。20年前の1994年、田中隆荘・初代学長が岡山県の特別史跡・旧閑谷学校から2本の楷の木の苗を譲り受け本学正門そばに植えた。楷の木は大きく成長し、その種から育てた小さな苗をこの日、思いを込めて植樹した。苗を育てた国際学部の山口光明教授はこのエピソードを紹介し「20年経ち次の世代もすくすくと育っている。また20年後にもこういうイベントができれば」と述べた。同日夜には大学正門そばの楷の木のライトアップも行った。

記念シンポジウム 「ヒロシマの記憶を未来へ」

開催日：2014年11月1日(土)

会場：広島市立大学講堂 大ホール



吉見俊哉氏



和合亮一氏



志賀賢治氏



井出明氏

プログラム

13:00～13:10

開式

開会挨拶 青木信之(広島市立大学長)

プログラム趣旨説明 若林真一(広島市立大学副学長)

13:10～14:20

第1部 基調講演

「震災と文化のサステナビリティ
—知識循環型社会と記憶の拠点化—」
吉見俊哉(東京大学副学長・大学院情報学環教授)

14:20～15:05

第2部 広島市立大学によるヒロシマの継承

「夏期集中講座『HIROSHIMA and PEACE』」
吉田晴彦(国際学部教授)

「IT技術による被爆資料の再現と発信」
馬場雅志(情報科学研究科講師)

「『光の肖像』展」
大矢英雄(芸術学部教授)

「広島・長崎の復興研究」
桐谷多恵子(広島平和研究所講師)

司会：水本和実(広島平和研究所副所長)

15:05～15:20 休憩

15:20～17:15

第3部 パネル討論

いかに記憶を継承するか —記憶と記録—

パネリスト：吉見俊哉(東京大学副学長・大学院情報学環教授)
和合亮一(詩人)
志賀賢治(広島平和記念資料館長)
井出明(観光学者)
水本和実(広島平和研究所副所長)
司会：湯浅正恵(国際学部教授)

17:15

閉会挨拶

若林真一(広島市立大学副学長)

17:20

閉式

(司会進行：浮田佳宏 事務局教務・研究支援室長)

「科学と芸術を軸に世界平和と地域に貢献する国際的な大学」を建学の基本理念に掲げる本学において、「ヒロシマの記憶を未来へ」をテーマに3部からなる開学20周年記念シンポジウムを開催した。

第1部では東京大学副学長で同大学院情報学環教授の吉見俊哉氏が、「震災と文化のサステナビリティ —知識循環型社会と記憶の拠点化—」と題して基調講演を行った。吉見氏は、広島・長崎への原爆投下、東日本大震災、さらに16世紀の大航海時代からの情報流通システムの変化に言及しながら、知識や文化を記録し、蓄積させ、継承して、繰り返し活用していく仕組みの必要性を説いた。

「広島市立大学によるヒロシマの継承」と題した第2部では、本学の3学部および附置機関である広島平和研究所の教員が登壇し、ヒロシマの体験や記憶の継承に関する本学の取り組みについて報告した。国際学部の吉田晴彦教授は、2003年に始まった本学の夏期集中講座「HIROSHIMA and PEACE」について、受講生が同じ時間を共有し信頼関係を築いた後、講座終了後も引き続きつながって交流を深め、さらに講座で得た知を共有財産として世界に広めているという講座の特長を述べた。情報科学研究科の馬場雅志講師は、他の教員らと10年以上にわたって取り組んできた被爆資料のデジタルアーカイブについて、これまでに開発したさまざまな技術やアプリケーションを紹介した。芸術学部の大矢英雄教授は、2004年から継続している「光の肖像」展を紹介。被爆1、2、3世の肖像画を描き、モデルの方々の経歴とともに展示するという一連のプロセスが、描く側にとって絵を描くことへの新たな発見につながり、同時に鑑賞する側にとって絵画鑑賞の醍醐味を発見し創造力を高めることにつながると指摘した。広島平和研究所の桐谷多恵子講師は、広島と長崎の被爆からの「復興」のプロセスを被爆者自身の視点から見て、生きる意欲を呼び起こすという意味での「復興」として着目するという自身の研究について紹介した。

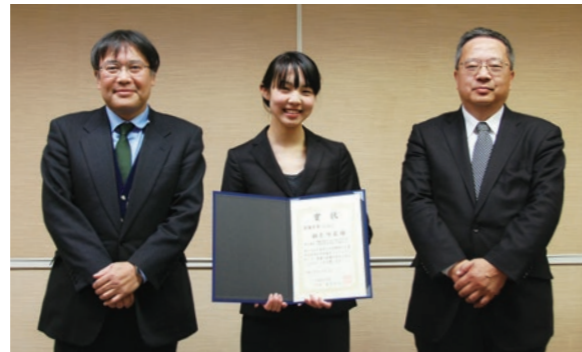
第3部では、基調講演を行った吉見氏に、詩人の和合亮一氏、広島平和記念資料館長の志賀賢治氏、観光学者の井出明氏を加え、「いかに記憶を継承するか —記憶と記録—」と題したパネル討論を実施。自身も福島で被災した和合氏は、被災した人々の話に直に耳を傾けてきた経験に基づき、受け手の心を突き動かす人々の生の声、彼らの「呼吸」、彼らの言葉にある「芯」を捉え残す方法を模索していきたいと話した。志賀氏は、2014年9月から4年間かけて行う広島平和記念資料館のリニューアルについて報告。今回のリニューアルでは、人間(被爆者)の視点から見たあの日の光景、実物資料、そして「多数の」ではなく「一人一人の」被爆者に焦点を置き、観覧者が原爆投下を見て、感じて、追体験できるような展示にして「人間的悲慘さ」をきちんと伝えていきたいと述べた。井出氏は、1990年代後半から研究され始めた、人類の悲劇の場を巡る旅「ダークツーリズム」という分野を紹介。旅は情報伝達メディアの一つであり、その場実際に足を運んでこそ時空を超えた人々の交流が可能となると述べた。また、過去の悲劇や教訓を現代の問題と結び付け、過去に起こった事は形を変えて異なる時代や地域でも起こりうることを伝えることが、時空を超えた記憶の継承につながるのだと述べた。



学生平和論文コンテスト



本学の開学20周年記念事業の一環として、国内外の学生を対象とした平和に関する論文を募集し、論文コンテストを行った。論文募集期間は6月1日(日)から8月20日(水)までの約80日間。日本語を母語とする者(海外の大学在籍者を含む)を対象とした国内部門と、日本語を母語としない者(日本の大学在籍者を含む)を対象とした海外部門を設け、国内部門に29編、海外部門に14編、計43編の応募があった。9月から10月にかけて2段階の審査を経て、11月1日(土)に以下の入賞者を発表した。



12月17日の表彰式にて。左から青木信之学長、国内部門最優秀賞受賞者の鍋島さん、実施委員長を務めた吉川元・広島平和研究所長

国内部門

- 最優秀賞 鍋島唯衣(広島市立大学大学院)
「被爆再現人形は何を伝えてきたのか ―被爆再現人形撤去を巡る論争を手がかりに―」
- 優秀賞 藤高リ(東京大学大学院)
「ヒロシマが紡ぐ『地』と『知』の連帯 ―『国際平和文化都市』としての広島の責任―」
- 優秀賞 南茂芽育(立命館大学)
「平和学習に必要な5つの視点 ―これからの世代が“考える”平和学習とは―」
- 佳作 石原遥(東京大学大学院)
「政治を問いかける市民と芸術 ―台湾ヒマワリ学生運動から見たもの―」

海外部門

- 最優秀賞 該当者なし
- 優秀賞(特別賞) Sin Etu(中国・首都師範大学)
「白マントと緑帽子の老紳士」
- 佳作 Du Xiaojun(中国・中国人民大学)
「日中関係とベクトル計算 ―答えを0ベクトルにする計算方法―」
- 佳作 Tran Thanh Loan(立命館アジア太平洋大学)
「未来平和のための科学技術」

大運動会

開催日: 2014年9月25日(木)
会場: 広島市立大学体育館

在校生が学部、学年、所属クラブ・サークルの垣根を越えて交流し、開学20周年を祝うという趣旨の下、カーブ応援サークル「スコット団」のメンバーを中心とした学生たちが大運動会を企画・開催した。実行委員長の藤井直也さん(情報科学部4年、スコット団所属)の開会宣言で幕を開け、騎馬戦、玉入れ、綱引きなどのおなじみの競技で盛り上がり、会場は熱気に包まれた。また、吹奏楽や軽音楽の演奏、ダンスショー、DJパフォーマンスもあるなど、学生たちの課外活動の成果と魅力もふんだんに盛り込まれた行事となった。



記念展示 附属図書館の20年

第1弾「図書館報『知恵の樹』創刊号～61号を中心に」／第2弾「市大コーナーを中心に」

開催日：【第1弾】2014年5月27日(火)～7月18日(金)
【第2弾】2014年9月29日(月)～11月28日(金)
会場：広島市立大学附属図書館

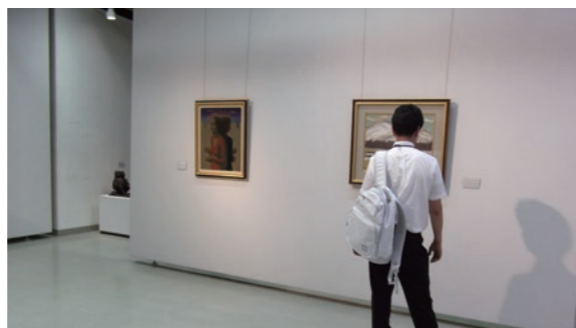
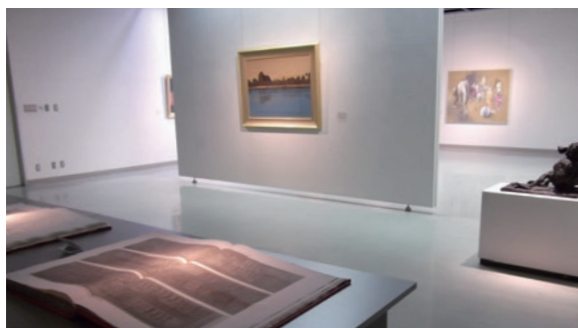
本学開学20周年という節目に、附属図書館の歴史を振り返る目的で「附属図書館の20年」と題した記念展示を開催した。2回にわたって開催した展示のうち、第1弾では図書館報『知恵の樹』の創刊号から最新号までの全号と、その紙面で本学教員がおすすめの本を紹介する「わたしの一冊」で登場した図書を展示したほか、図書館のあゆみを紹介する年表や開学前の本学敷地の写真、開学時の新聞記事、大学広報誌『West Breeze』の過去号も、併せて展示した。第2弾では、普段は館内の「市大コーナー」に配架している本学教員による出版物、国際学部紀要、芸術学部・研究科の卒業修了作品集などを展示した。



収蔵作品大公開展

開催日：2014年6月13日(金)～26日(木)
会場：広島市立大学芸術資料館

本学の芸術資料館が1994年の開学以来収集してきた作品を厳選して公開。大歳克衛、野田弘志、両本学名誉教授の作品をはじめ、平山郁夫やイサム・ノグチの作品、エジプト記、室町・桃山・江戸時代の東洋画など、貴重な作品も多く展示した。また、展示会の様子はケーブルテレビやNHKのニュース番組でも取り上げられ、学外からも多くの来場者を迎えた。



情報科学部公開講座

「未来の医療を切り拓く医用情報科学」

開催日：2014年9月12日(金)
会場：広島市立大学サテライトキャンパス

情報科学部では2012年度に医用情報科学科を新設した。この講演会では、医用情報科学科の授業を担当する樋脇治教授、式田光宏教授、増谷佳孝教授がそれぞれ「脳が行う情報処理」「マイクロマシンが実現可能にする医用工学」「画像とコンピュータで生体(からだ)を観る、診る、みる!?!」と題した講演を行い、情報、工学、医学などの既存の学問体系を超えた人材育成という本学科のねらいと、この学問領域が拓く将来像を紹介した。



アクア広島センター街40周年記念特別ディスプレイ「結び」

開催日：2014年9月19日(金)～10月31日(金)
会場：アクア広島センター街2階 中央広場(広島市中区)

アクア広島センター街の開業40周年と本学の開学20周年を記念し、テキスタイルの空間造形による特別ディスプレイを実施した。ポリエステル製の組紐と特殊金糸を使用し、マクラメ技法(結び目で構築されたネット状の繊維造形)で制作した帯状の作品を、天井から縦横に設置。「結び」というコンセプトの下、地域と人を「結ぶ」場所を組紐の「結び目」に象徴させ、人々の集まる路地やにぎやかなバザールをイメージして、訪れる人々が温かく包み込まれる空間を表現した。



アンネ・フランク展「希望の未来」

ベルタ・フォン・ズットナー展「平和のために捧げた生涯」関連企画：一人芝居「情熱に燃える魂」

【パネル展示 第1期】
開催日：2014年10月27日(月)～11月2日(日)
会場：広島市立大学広島平和研究所

【パネル展示 第2期】
開催日：2014年11月4日(火)～11月10日(月)
会場：広島市立大学サテライトキャンパス

【関連企画 一人芝居】
開催日：2014年10月29日(水)
会場：アステールプラザ大音楽室(広島市中区)

『アンネの日記』で知られるアンネ・フランクと、第一次世界大戦前のヨーロッパで平和の重要性を説き、女性初のノーベル平和賞受賞者となったベルタ・フォン・ズットナーの生涯を振り返るパネル展示を開催した。前者はホロコースト記念館(広島県福山市)、後者はオーストリア大使館との共催。戦争の記憶をいかに伝え、どう平和につなげるのかを考える機会となることを目的とした。また関連企画として、ズットナーの生涯を描いた一人芝居「情熱に燃える魂」も上演した。



国連写真展 — We the Peoples —

開催日：2014年11月1日(土)～2日(日)・4日(火)～7日(金)
会場：広島市立大学講堂および附属図書館

2015年の国連創設70周年に向けた国連の広報活動への協力事業として「国連写真展 — We the Peoples —」を開催した。11月1日(土)～2日(日)は本学の大学祭、ホームカミングデー、開学20周年記念シンポジウムといった諸行事に合わせ、講堂エントランスホールにて実施。11月4日(火)～7日(金)は新設の附属図書館ラーニング・commons「いちこも」で展示した。本学の学生・教職員はもちろんのこと、学外からも多数の来場者があった。



国際学部公開講座

「大衆文化を通じた国際交流」

開催日：2014年11月16日(日)
会場：広島国際会議場 地下2階ラン①(広島市中区)

11月16日(日)、広島国際会議場にて「大衆文化を通じた国際交流」をテーマとした国際学部公開講座を実施した。前半では同学部の柿木伸之准教授が司会を務め、佐藤深雪教授、金泰旭教授、ルーク・カーソン准教授、飯島典子准教授が、大衆文化とその交流について世界の事例を交えながら講演。後半では、本学で学んでいる韓尚眞さん(国際学研究科在籍、韓国出身)とオマル・ロサレスさん(芸術学研究科在籍、メキシコ出身)が、それぞれの母国で流行している日本の大衆文化や、日本で母国の大衆文化に接した体験談を紹介して、受講生との意見交換を行った。



ひろしまドリミネーション2014

開催日：2014年11月17日(月)～2015年1月3日(土)
会場：ひろしまドリミネーション2014 Aエリア(NHK広島放送局前)(広島市中区)

広島の冬の風物詩である市内中心部一帯でのイルミネーション事業「ひろしまドリミネーション」において、本学が初めてモニュメントのデザインに参加した。学内のデザインコンペを経て採用された横佩祐司さん(芸術学部4年)の作品「peace loop」は、毎年8月6日の平和記念日に行われる灯籠流しをモチーフに、LEDによる川の流れると柔らかな灯籠の光を表現。ドリミネーションの一角を彩り平和への想いを発信するとともに、本学の開学20周年を内外に広くアピールした。



時計台受贈・施設リニューアル

開学20周年を迎えた2014年、本学後援会より時計台の寄贈を受け、ホームカミングデー初日の11月1日(土)に設置場所の本学キャンパス正面階段そばで贈呈式を行った。時計台は太陽光エネルギーで駆動しLED内部照明を備えた電波時計で、文字盤には本学のコミュニケーションマークが入っている。

また、時計台受贈の前月の10月には本学の諸施設をリニューアルし、開学20周年という節目を迎えた本学の学習環境の改善を図った。

時計台



ラーニング・コモンズ「いちこも」



約260㎡、80人収容。ガラス張りで明るく開放的なスペースの「いちこも」は、可動式の机・イス、プロジェクター、大型モニター、ホワイトボード等を備え、グループワークの場として活用できる。同時にエントランスエリア、個人学習のためのサイレントエリア、同館1階のオープンエリアも整備し、多様な形態の学習が可能となった。

アートシアター



学生が制作した映像作品のプレビューでの使用を目的として設計しており、このほか作品鑑賞、少人数のレクチャー、プレゼンテーションにも利用できる。幅3645mm×高さ1992mmのスクリーン、WUXGAで7000ルーメンの高輝度プロジェクター、7.1chサラウンドシステムの音響装置、二重防音設計構造を整備し、階段式の客席には40人まで収容できる。

語学センター



対面型、自習型、協働学習型、あるいは少人数や多人数など、さまざまな使用形態に対応する教室に改良を加え、学生の自学自習やグループ学習、授業外学習を支援するなど、さらに幅広く活用できる環境を実現。ネットワーク環境の向上、グループ学習室の新設、落ち着いたトーンの教室デザインへの変更などにより、さらに快適な学習空間を整備した。

情報処理センター



全学ネットワーク、教育・事務関連の各種システムについて、新機能の導入や拡充を図った。全学サーバ群はデータセンターに移行し、防災対策や利便性を強化。教育環境は、仮想化することにより、実習室以外の場所でも同じ環境で学習することが可能となった。また、フロアカーペットや机を一新したり暑さ対策を講じるなど、より快適な学習環境とした。

記念刊行物

開学20周年を記念して、本学の開学以前からのあゆみをまとめた『広島市立大学開学20周年記念誌』を秋に刊行したほか、大学広報誌『West Breeze』、附属図書館報『知恵の樹』、語学センターのニュースレターなどの各種定期刊行物でも特別号を発行し、年表や卒業生の寄稿を掲載して20年のあゆみを振り返った。

開学20周年記念誌



大学広報誌『West Breeze』



語学センター Newsletter



附属図書館報『知恵の樹』



2014年度開催の主な行事一覧

本学が開学20周年を迎えた2014年度には、さまざまな行事を主催・共催した。ここでは本冊子で詳細を紹介していないものも含めて、主な開催行事を一覧で紹介する。

2014年 5月	国際	市大英語eラーニング講座(5/25～8/10・7/27～10/19・9/28～12/14・11/30～2/22、於：本学サテライトキャンパスおよび広島市男女共同参画推進センター)
	附属施設	記念展示「附属図書館の20年—図書館報『知恵の樹』創刊号～61号を中心に」(5/27～7/18、於：本学附属図書館)
6月	全学	学生平和論文コンテスト(6/1～8/20募集、11/1審査結果発表)
	平和研	連続市民講座「緊張する東アジア国際関係—何が東アジア平和の障害となっているのか」(6/6～7/4、於：広島市まちづくり市民交流プラザ)
	附属施設	収蔵作品大公開展(6/13～26、於：本学芸術資料館)
7月	全学	記念式典・記念講演・祝賀会(6/14、於：リーガロイヤルホテル広島)
	国際	コロキアム「貝貨の経済人類学—バブアニューギニアのトーライ社会の自生通貨」(7/4、於：本学)
8月	情報	ひろしまコンピュータサイエンス塾(7～3月、於：本学)
	平和研	国際シンポジウム「信頼醸成から核廃絶へ—2015年NPT再検討会議に向けて」(8/2、於：広島国際会議場)
	芸術	キッズキャンパス2014(8/24、於：本学)
9月	国際	県立広島大学・広島市立大学連携公開講座「社会人のための英語再チャレンジ」(9/3～10/1、於：本学サテライトキャンパス)
	情報	公開講座「実践情報科学セミナー」(9/11・16、於：本学サテライトキャンパス)
	情報	公開講座「未来の医療を切り拓く医用情報科学」(9/12、於：本学サテライトキャンパス)
	芸術	アクア広島センター街40周年記念特別ディスプレイ「結び」(9/19～10/31、於：アクア広島センター街)
	全学	大運動会(9/25、於：本学体育館)
10月	附属施設	記念展示「附属図書館の20年—市大コーナーを中心に」(9/29～11/28、於：本学附属図書館)
	国際	シンポジウム「平和研究とヒロシマ—その展望と課題」(10/27、於：本学)
	附属施設	「活躍する卒業生 未来をつくる」展(10/27～11/9、於：本学芸術資料館)
	平和研	アンネ・フランク展「希望の未来」&ベルタ・フォン・ズトナー展「平和のために捧げた生涯」(10/27～11/2・11/4～10、於：広島平和研究所および本学サテライトキャンパス)
11月	平和研	一人芝居「情熱に燃える魂」(10/29、於：アステールプラザ)
	全学	第1回ホームカミングデー(11/1～2、於：広島市文化交流会館および本学)
	全学	記念シンポジウム「ヒロシマの記憶を未来へ」(11/1、於：本学講堂)
	全学	時計台贈呈式(11/1、於：本学)
	全学	国連写真展—We the Peoples—(11/1～2・11/4～7、於：本学講堂および附属図書館)
	芸術	アートシアターこけら落とし上映会「活躍する卒業生 映像をつくる+ (プラス)」展(11/1～2、於：本学芸術学部棟2階アートシアター)
	国際	公開講座「大衆文化を通じた国際交流」(11/16、於：広島国際会議場)
	芸術	ひろしまドリミネーション2014(11/17～1/3、於：ひろしまドリミネーション2014会場)
	平和研	連続市民講座「第一次世界大戦開戦100周年—現代の平和を考えるために」(11/21～12/19、於：広島市まちづくり市民交流プラザ)
12月	国際	日本アフリカ学会公開セミナー「紛争後アフリカと日本—元子ども兵士の生きる世界」(11/22、於：広島市まちづくり市民交流プラザ)
	国際	シテカレッジ提供講座「スポーツによるまちづくり—広島市民とスポーツ」(12/3～24、於：広島市まちづくり市民交流プラザ)
2015年 1月	国際	特別授業「輝くダイヤモンドの裏側の真実」(1/15、於：本学)
	国際	公開セミナー「地域活性化と公会計・会計審査」(1/27、於：本学サテライトキャンパス)

広島市立大学開学20周年記念事業記録冊子

編集	広島市立大学開学20周年記念誌編集委員会 デザイン担当：橋本 英和 実務担当：高橋 優子
発行	公立大学法人広島市立大学
印刷	株式会社インバルスコーポレーション
発行日	2015年6月14日



Hiroshima City University